



## 大会結果

優勝おめでとうございます

### ▼ハンググライダー



- 第1位 高見 正治 (広島県) 記録：104点
- 第2位 崎山 和弘 (広島県) 記録：168点
- 第3位 大竹 直樹 (岡山県) 記録：172点

### ▼パラグライダー



- 第1位 伊藤 健 (鳥取県) 記録：13点
- 第2位 足蒨 良彦 (広島県) 記録：33点
- 第3位 松田 博文 (広島県) 記録：96点

## 飛行時間は10分から15分

9月10日、晴天の秋空のもと、スポーツ行事のハング・パラグライダー大会が開催されました。参加者はハンググライダーの部が10名、パラグライダーの部が46名。競技はハンググライダーの部から開始され、選手は嵩山山頂から飛び立ち、10分から15分の時間をかけて橋ウインドパークへ着陸しました。

## 競技種目はアキュラシー

ハング・パラの競技にはさまざまなものがありますが、今回は「アキュラシー」という、着陸地点(ターゲット)にいかにか正確に着陸できるかという競技が実施されました。

他の競技には、どれだけ長く飛んでいることができるか滞空時間を競うものや、数々の決められた目標物の上空を正確に通過し、着陸地点までどれだけ短時間で飛行できるか競うものがあります。選手は、橋ウインドパークに設置された半径10mの円の中心に向かって着地を目指しました。ハング・パラの両競技とも、着陸点が円の中心から遠くなるほど点数が高くなり、点数が一番低い人が優勝となります。なお、ハンググライダーの部は安全を考慮し、特別ルールとして円の中心めがけてボールを落とし、ボールの落ちた地点が中心が一番近い人を優勝としました。選手は風を計算しながら機体をうまく操り、円の中心に正確に着陸できるように競い合いました。

アキュラシー競技の得点は着陸点が円の中心から1cm離れるごとに1点加算され、10mを超えた選手はすべて得点が1000点になります。また、きれいに着地しなければならず、着地の時に、尻もちをついた場合なども得点は1000点になります。

(※今回ハンググライダーは特別ルールのため、10cmで1点としました。例えばボールの着陸点が1240cmの場合、10mを超えていても得点は124点となります。)



## ハンググライダー体験コーナーも大好評でした

大会当日は、橋ウインドパークにてハンググライダーの体験も実施されました。

参加者のほとんどがハンググライダーは初めての体験となるため、飛び立つ前はやや緊張している様子でしたが、いざ飛び立ち、空を浮く気持ち良さを体感すると、再びチャレンジする人もいました。

▼初フライトが成功すると歓声を上げるなど、ハンググライダー体験を楽しみました。



▲動力で機体を引っ張り、地上3mぐらいの高さをゆっくり飛行しました。